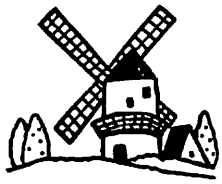
ろくおん通信
発行日：1995年5月15日
No.73号
発行：盲人情報文化センター録音製作係

「音声訳」を考える（第26回）

処理を考える（第1回）



今回から音声訳の「処理」について考えていきます。
「処理」とは、「①さまざまな形態で書かれている原本の内容を音声に変換しても内容が変わらないように伝える技術であり、②かつ録音の不便をカバーして少しでも利用者が利用しやすいように配慮する技術」といえます。1冊ごとに違う原本にたいして音声訳者も日々研究し工夫しなければ、適切な処理を行うことはできません。処理に関するマニュアルとして、ボランテイアグループの為に編集された音訳マニュアル『活動するあなたに』（発行：日本盲人社会福祉協議会点字図書館部会）がありますが、今回からこの本の「処理」の部を紹介しながら、さらに盲人情報文化センターで、整理し、工夫してきた処理の方法も紹介しながら処理技術を深めていきたいと思います。

処理技術といっても、処理の①にあたるものと②にあたるものとで違ってきます。①にあたるものには、1)さまざまな記号、2)外国語、3)ルビ、4)同音異義語（漢字の処理）、5)表・図や写真などの処理があります。これらの処理は「音声訳上の処理」と呼ばれています。処理の②にあたるものは、録音図書の欠点を少しでも補い、利用者が利用しやすいように録音図書の構成をいろいろ工夫することです。これは、「構成上の処理」と呼ばれています。

今回からは、①にあたる「音声訳上の処理」について考えていきます。

つづく

練習問題（引用文の処理）

「件」のはなし

内田百間は、昭和二十年五月二十五日の東京大空襲で、麹町区５番町の家を焼かれた。同じ日、同区同町の十番地ちがいに住んでいた私も、同じように家を焼かれた。ただし、私は内田百間という作家の存在自体を知らなかった。もう大学生になっていたのだから、迂闊なことである。

家を焼かれたあと、郊外の叔父の家に私一人だけ居候をすることになった。この叔父の連れ合い、つまり叔母が熱狂的な百間のファンで本を貸してくれた。百鬼園随筆の系統ばかりだったが、そのおもしろさに一驚した。

終戦後はやたらに慌しくて、内田百間の戦前の作品まで手がまわらなかったが、雑誌発表のものはだいたい読んだ。新刊本も、昭和四十六年の『日没閉門』まで、眼に触れれば買っておいた。ただ、「冥途」の系統の作品群を読んだのは、だいぶ後になってからである。これも、迂闊なことだった。

先年、平山三郎『詩琴酒の人』（昭和五十四年）を拾い読みしてみると、こういう部分が眼についた。

『（昭和）十四年一月頃の事と思はれるが、長年の親しい友人だつた佐藤春夫と交際を断つた。杉並区方南町に別居している長女の結婚の話があつてまとまつたところ、その媒酌を佐藤春夫が引受けたと通知されたので百間は激怒した。父親に何の相談もしないで佐藤に頼むとは何事か、また引受ける佐藤も佐藤だと云ふので、小石川関口町の佐藤慵斎居に行き、「爾今、絶交する」と宣言したといふのだ』

これには、驚いた。こういうことは、何も知らなかった。

内田百間が借金取りに苦しめられる話は有名だが、遊蕩癖のある人ともおもえない。陸軍と海軍の学校の教官をしている上に、法政大学の教授でもある。なぜそんなに金が足らないのか、かねがね不思議におもっていたが、二つのカマドを持っていたためだろうか。

その後、伊藤隆史・坂本弘子『百鬼園残夢』（昭和六十年）が出て、三女菊美さんの側からもその事情がすこしあきらかになった。

ただ、私としては平山さんの文章に接したときの驚きが最も烈しくて、そのあとはそういう事情に関しては億劫な気分が強くなった。

その替りに、気にかかりはじめたのは、「件」のことである。「件」については、川村二郎が『内田百間論』（昭和五十八年）のなかで、「牛人伝説」とい

う章を設けて鋭く分析している。私が書くことは、その論に異を立てるものではなく、いや、異を立てることにすらならない事柄なのである。

岡山駅前の市電ターミナルの近くに、横長の大きな公告看板があった。痔の民間薬の公告のようで、大きく「ぢ」という文字があり、看板一杯に人間の顔をした牛が描いてあった。その絵と字体がなんともいえず古くさく、救いようのない暗さである。鍼(はり)のツボを示す人型の絵にこういうのがあって、牛人（件）は輪郭だけで描かれている。男ともつかず女ともつかず、大人とも子供とも判別が出来ず、頭も輪郭だけだから坊主頭の気の弱い少年のようにもみえる。顔は薄笑いのようにもみえるし、途方にくれているようにもみえる。痔を治すという責任に耐えかねているようでもある。

両親とも代々岡山の家系だが、私は昭和三年から東京で育った。しかし、駅前ターミナルから市電で二つ目の駅の近くに、祖父や叔父が住んでいたので、しばしば帰郷してときには長逗留になった。そのたびに、この看板を見るのだが、その度になにか途方にくれる気分が起こる。烏城(うじょう)や後楽園の近くで育って、第六高等学校生徒であった内田百閒も、当然この看板を見ていた筈である。

岡山空襲のあとは、この看板はない……。いや看板自体が私の幻覚ではなかろうか、と心もとなくなってきた。調べてもらうと、たしかに戦前戦中にはそういう看板が存在していたそうである。

『件の話は子供の折りに聞いた事はあるけれども、自分がその件にならうとは思いもよらなかったからだが牛で顔丈(だけ)人間の浅間しい化物に生まれて、こんな所にぼんやり立つている』『件は生まれて三日にして死し、その間に人間の言葉で、未来の凶福を予言するものだと云ふ話を聞いている。こんなものに生まれて、何時迄生きていても仕方がないから、三日で死ぬのは構はないけれども、予言するのは困ると思つた。第一何を予言するんだか見当もつかない』

夜が明けると、何千何万もの人間が、件を遠巻きにした。件の予言を待つのである。逃げだしたくなるのだが、そのスキがない。困って、水を飲んだり、横を向いたりするが、その一つ一つに人々は意味を見付けようとして、ざわめく。

件はいつまでも黙っている。群衆は苛立ち怯えて、件が余程大変なことを言い出しそうな気になってくる。

『いいにつけ、悪いにつけ、予言は聴かない方がいい。何も云はないうちに、早くあの件を殺してしまへ』

という声が、群衆の中から飛んだ。

『その声を聞いて私（件）は吃驚した。殺されては堪らないと思ふと同時に、そ

の声はたしかに私の生み遺した倅の声に違ひない』

ここで、また詮索に戻ってしまうところが困るのだが、「件」は大正九年百間三十一歳のときの作品である。初恋の人と結婚したのが大正元年、翌年長男が生まれている。妻との不和が書かれているのは大正十一年だが、そこに『永い間の心労』という文字がある。大正九年の頃に、すでに将来別居の予感があったかどうか。

「件」を書いたとき、長男のことが頭にあったかどうか。心労の投影と牛人を描いた公告版の投影とが、作品にあったかどうか。

もっとも、それが分かったからといって、どういうこともない。「件」のこぼればなし、といったところである。

『懐かしの人たち』吉行淳之介

ことばQ＆A　＜『NHKことばのハンドブック』より＞

《エイ、ケイ、セイ》の発音

Q　「映画」ということばの発音は［エーカ゜］か［エイカ゜］か。

A　「映画」「敬語」といったことばは、現代かなづかいでは、「えいが」「けいご」と書く。実際上も、地方により、人により、また場面により、「エイカ゜」「ケイコ゜」と発音されることもある。しかし、共通語としては、［エーカ゜］［ケーコ゜］のように発音するのが普通である。［エイカ゜］［ケイコ゜］と言うと、日常的な場面では、聞き手に多少の違和感を与えることになるであろう。

ただし、これは主に「映画」「敬語」のほか、「生活」「提供」「平均」「迷惑」といった漢語系統のことばについて言えることである。同じように「えい・けい・せい・・・」なるとは限らない。

和語の場合、たとえば、魚のえいは［エイ］、動詞の「招いて」は、［マネイテ］、「わめいて」は［ワメイテ］、「（人の）せいにする」は［セ

イニスル］（または［セーエニスル］）と発音される。また、外来語の場合は、たとえば、英語の二重母音［ei］を、［エイ・ケイ・セイ・・・］と発音すべきかが問題になる。ＮＨＫでは、原則として［ei］は、「エー・ケー・セー・・・」と発音することに決めている。「ケース」「メール」「レース」などがその例である。

問題はアルファベットのＡ、Ｊ、Ｋの発音で、これは一応［エー］［ジェー］［ケー］だが、改まった場合には［エイ］［ジェイ］［ケイ］と発音されるのが普通である。

二通りの読みがあって意味が異なるもの・・・（３３）

新木	アラキ	新しい強い木。切り出したままで加工していない木材	滑り	ヌメリ	ぬめること。泥にまみれること。
	ニューギ	祝い木。御新木（おにぎ）。		スベリ	すべること。すべる様
大手	オオテ	城の表門	精進	セイシン	物事に詳しくよく務めること。
	オオデ	肩から手先まで		ショウジン	(仏)仏道修行に励む事
処分	ショブン	事柄に決まりをつけること。	間数	マカズ	部屋の数
	ソウブン	財産・遺産をわけあたえる事		ケンスウ	六尺を単位とした長さ

きれいに録音するために（第１４回）

訂正の音を合わせる

せっかく訂正しても前の音と合っていないことがあります。訂正した部分が合わないケースとしては、

1. 音量が違う
2. 音質が違う
3. 読み方の調子
4. スピードが違う
5. 雑音が入る

などといったことがあります。まず、どれにあたるかを診断します。

１．音量が違う

これは、前後を聞くとすぐわかります。音量が小さいか、大きいかはそんなに難しいことではないでしょうが、ちゃんと合わせるには、やはり一定の訓練が必要です。ピークレベルメーターなども参考にしながら、自分の耳で確かめ、あっていないときは調整します。音声訳者は自分の録音機の最適なボリュームを決めておき、それを変えないように録音することが大切です。録音レベルはいつもの位置なのに音量が合わないのは、別の原因ということになります。例えば、ステレオ録音になっていないと小さく録音されてしまいます。ピークレベルメーターが、Ｌ・Ｒともに正しく振れているか確かめます。また、電池内蔵のマイクの場合、電池の寿命もチェックしましょう。また、マイクの角度が変わっても音量は変化します。正面の時が一番シャープになりますが、角度がかわれば音量がさがり音質もシャープさがなくなってきます。

２．音質が違う

音質が違う場合はボリュームの調整で合わせることはできません。原因はいろいろあります。

例えば、硬い感じの声とソフトな感じといった音質の違いがあるのは、マイクの距離が変化することで起こります。マイクの距離が近くなると、音質はソフトになってきます。また、マイクの距離が遠くなると、高音がつよくなり硬質な感じになります。ボリュームを一定にしておけば、これを合わせるには、マイクの距離を前回と同じようにしなくてはなりません。また、マイクの距離が一定でも、マイクが違うと音質は違ってきます。エレクトレット・コンデンサーマイク（電池内蔵のマイク）は、シャリシャリといったシャープな感じになり、ダイナミックマイク（電池不要のマイク）はソフトな感じの音になります。訂正を違うマイクで行うと合いません。

３．読み方の調子、スピード、間が違う

読み終えてから、時間が経過して訂正するような場合、読んでいるときの調子に合わせられず調子が合わないこともあります。これらは小説などで会話の部分などを訂正するときによくあるようです。会話の流れがどうしても不自然になることがあります。前の調子に合わせるには、後追い録音機能がついていないとどうしても調子を合わせるのは大変です。訂正す

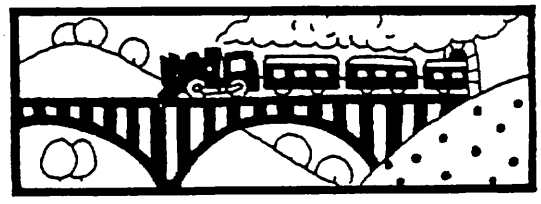
る時は、誤読の部分だけの読み換えは不自然になりますから、一つの区切り全体を読み変えますが、後を消すことを心配して早口に読むことがあります。早口になると、調子が合わないだけでなく、あとで編集しないのであれば、不自然な間ができてしまいます。録音図書の場合、「間」も大きな意味をもってきますので誤解を与えます。不自然に「間」が入ったり、調子が変わると、話が変わるのかと誤解させたりします。「間」も変わらないように注意して訂正しましょう。盲人情報文化センターでは、編集していますので、２校の訂正までは、少々間ができたり、消え残りがあっても良いことにしていますが、編集からの訂正作業は間などの調整はできませんので、きれいにはめ込まなくてはなりません。ときどきは訂正部分の調子がおかしいと指摘されることがありますが、必ず訂正したら前後を聞いて確認しましょう。マイク等の位置は、人によってまちまちです。、自分のマイクの位置や角度、距離などは必ず確認して録音をはじめましょう。

４．雑音、反響音、共鳴音

訂正部分だけが、変な音が入ったりすることがあります。「ジィー」という雑音であれば、電気的なものですから、ヘッドホンを付け、ポーズ状態にしてから、マイクのコードやプラグなどいろんな所をさわってみて原因を探します。「ジイー」音が出たり止まったりする所があればそこが原因ですので、早めに直すようにしましょう。

また、部屋が変わっても反響音などが変わってきますので音が合わなくなります。訂正作業をする時は、できる限り同じ部屋で行いましょう。反響音と違って、共鳴音も入ることがあります。例えば、おわん型のスタンドを使用して、共鳴音が入ることもあります。急に「ホワン」と響くような感じになるのは、何かと共鳴しています。共鳴しているものを探し、原因がわかればそれを遠くにやるなどして共鳴を防ぎます。共鳴は、筒型の箱の上にマイクを固定しても起こります。

つづく



リクエスト図書一覧

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。
グループの方で引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

『タイム・パトロール／時間線の迷路』上　ﾎﾟｰﾙ･ｱﾝﾀﾞｰｽﾝ著　＜小説＞
『タイム・パトロール／時間線の迷路』下　ﾎﾟｰﾙ･ｱﾝﾀﾞｰｽﾝ著　＜小説＞
『栗田式新・指回し健康体操』　栗田昌裕著　＜医学＞
『＜医＞をめぐる言葉の辞典』ｼﾞｮﾝ･ﾃﾞｨﾝﾃｨｽ, ｱﾏﾝﾀﾞ･ｱｲｻﾞｸｽ著　＜医学＞
『英語科教育法入門』土屋澄男著　＜英語＞

引き受けて頂いた原本	グループ
『死体農場』P.コーンウェル著　＜小説＞	みなわ
『神の火　上・下 』	ICCB
『社会福祉国家試験模範解答集』	えくてもあ
『流石茶で体内結石が消える』	えくてもあ
『ＮＴＤ新訳聖書注解８』	ICCB

お知らせ

『英語・カタカナ語音訳マニュアル』の案内

日本語の文章に出てくる『英語・カタカナ語の処理マニュアル』が、近点協録音委員会英語チーム、および盲人情報文化センター音訳ボランティアのみなさんのご協力で完成しました。（B5版p48）残部ありますので希望者は係までご連絡下さい。

「音声訳研修の会」について

４月以降に予定しています「音声訳研修の会」は、準備が遅れておりまだ目処がたっていません。とりあえず、スタート時期は『ろくおん通信』でお知らせ致しますのでご了承ください。